

来賓挨拶



特許庁長官 伊藤 仁

特許庁長官の伊藤でございます。

本日は特技懇の懇親会にお招き頂きまして、誠にありがとうございます。

伝統ある特技懇の場で挨拶をさせていただくことを光栄に思います。まずは長年にわたり知的財産行政に貢献されてきた諸先輩方に心から敬意を表すとともに、庁内で日々業務に励んでいる会員の皆様に、この場を借りて改めて御礼を申し上げます。私は復興庁から参りましたが、被災地の復興に当たっては多数の方々のご協力をいただき、審査官の中からも被災自治体支援派遣として多数

の方を送り出していることにつきまして改めてお礼申し上げます。

また、本日は、裁判官、審議会委員や関係諸団体の皆様など、我が国の知的財産制度に関わる多くの方々にも御出席いただいております。知的財産制度は、我が国のイノベーションを支える重要な基礎の一つです。日ごろの皆様のお支援に感謝を申し上げるとともに、引き続き御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

振り返りますと、これまでの10年間、2003年に「知的財産基本法」が制定されてから今日に至るまで、政府は、首相を本部長とする「知的財産戦略本部」を設置するなどして、産学の協力も得ながら政府を挙げて、知財の創造・保護・活用のための体系的な制度の整備に取り組んでまいりました。

その中で我が国の特許庁においては、特許審査に関するこの10年間の長期目標として、平成25年度末までに一次審査通知期間（FA：ファーストアクション）を11か月内とする、これをFA11と呼んで目標達成に向け取り組んでまいりました。これを達成するためには、平成16年以来の任期付審査官の新規採用およびその増員、登録調査機関による先行技術調査の拡充といった取り組みに加え、個々の審査官の日々のためまぬ努力が必要でした。

そして、この3月に皆様の尽力が実り、見事FA11の目標を達成することができました。改めてお祝いを述べさせていただきます。本当におめでとうございます。

本日壇上に掲げられております看板にもFA11達成を祝うとありますが、まさにこの懇親会は、尽力頂いた皆様はこの10年間の様々な苦労を振り返って歓談頂くのに絶好の機会なのだと思います。



さて、この10年間で、知財制度とそのユーザーを取り巻く環境はよりグローバルな方向に進み、製造業・サービスのビジネスモデルは大きく変貌を遂げております。我が国のみならず、グローバルな環境の中での事業者にとっては、革新的な事業活動や技術開発の成果をどのような形で「価値」として位置づけ、その拡大と次なる「価値」の創造の途を描き、そのために、知財の創造・保護・活用をどのように実践していくのか、という課題が改めて問い直されております。

世界に目を向けてみましょう。中国はその発明奨励による専利出願の爆発的な伸びにより、世界一の出願大国となりました。また、各国の知財制度の整備への取組みや地域それぞれの活動が事業者の眼前に現われております。その中において、各国とのハーモナイゼーションを行いつつも、制度としての国際競争力が求められており、国内だけでなく、各国ユーザーからの評価も勝ち取っていかねばなりません。

したがって、特許庁の10年来の目標であるFA11を達成した今、世界における我が国特許制度を、諸外国制度と比して、より魅力あるものとするため、今後10年間で、特許の一次審査通知までの期間を10か月以内とするのみでなく、特許の権利化までの期間を14か月以内にするとして、世界最速の審査スピードとすることを目標として新たに掲げさせていただきます。

これは、日本の特許庁において、世界で最も早く権利化することができる知財システムを実現することで、この制度間競争の時代において、我が国における権利化が世界のユーザーにとって最も魅力的であることを目指すものです。

また、我が国の特許庁は最速であると同時にプロフェッ



ショナルな特許審査でなければならないと考えております。

世界最速かつ世界最高品質の特許審査を実現するのは、ここにいらっしゃる審査官の皆様方であります。先ほどこの10年を振り返ってと申しましたが、同時にこれからの10年に向けて志高く取り組んで行くための決起の機会でもあったらと思います。

本日7月16日は、1969年に、世界初の有人月面着陸を成し遂げたアポロ11号が打ち上げられた日であり、まさに新しい時代の幕開けにふさわしい日です。新たな目標を掲げ、これからの10年に向けて、新しい時代を切り開いて行きましょう。

最後になりますが、今年度、特技懇は120名の新入会員を迎えた事を誠に嬉しく思います。また、かくも盛大な会合を準備し、円滑に運営されている幹事の皆様に感謝を申し上げます。審査官・審判官の研鑽の場であるとともに、知的財産に関わる皆様との交流の場でもある特技懇のますますの発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

